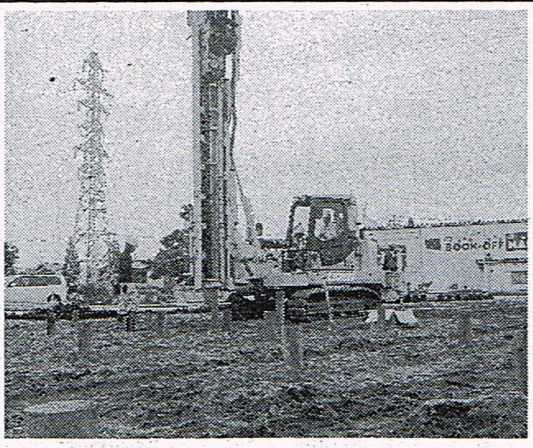
日刊木材新聞　2013年7月27日(土)6面に掲載

地盤改良に独自の工法技術

環境パイルの普及で協会を組織

兼松日産農林



兼松日産農林の第三者認証取得工法、木杭の「環境パイル」工法

兼松日産農林（東京都、高崎實社長）の主力事業の一つが地盤改良・地盤補強工事や地盤調査、木杭の環境パイル工法などを展開するジオテック事業部だ。地盤改良・地盤調査業界の年商では兼松日産農林のジオテック事業部は業界5番手だ。住宅地の地盤補強技術や工法を持つ。

一番多い工法は柱状改良工法だが、同工法が不向きな物件（土壌）には環境パイル工法を提案している。これは地盤補強工法として、日本建築総合試験所の建築技術性能証明書を地盤業界で初めて取得した。同社では環境パイルの協会を組織し、技術やノウハウをオープン化して普及に努めている。

さらに環境パイルが木材利用ポイントの対象製品となっている。延べ床面積100～110平方㍍の木造住宅で、環境パイル3～4本を使用することから、木材利用ポイント申請に必要な書類の提出も簡単にできる。

福井県のABコーポレーション（福井市、油屋敏行社長）は基礎工事や建築・土木事業を行っているが、福井県産の杉を活用した地盤改良を展開。環境パイル工法の現場見学会を開催している。丸棒加工や加圧注入し防腐・防蟻設備を持つ美山町森林組合（同）とともに、木杭の県産材活用に取り組んでいる。